

かがやきプラス 中学生 家庭版



テーマ 持ち続けよう 子どもとともに学ぶ姿勢

コミュニケーションと食事

金沢学院短期大学 食物栄養学科 教授 もろおか こうさい 諸岡 康哉

コミュニケーション能力の重要性

現代ほどコミュニケーション能力が必要となってきた社会はないといえます。モノづくりから対人サービスを中心とする第三次産業へと構造変化することによって、コミュニケーション能力を必要とする社会となってきたからです。企業での新卒採用の選考でも、「コミュニケーション能力」を重視するという企業が9割近くにのぼってきています。すでに文部科学省においても「コミュニケーション教育推進会議」を設置し、コミュニケーション能力の重要性やその育成についての議論が進められてきています。



一人での食事

家庭での子どものコミュニケーション能力の育ちはどうでしょうか。現代社会では親の勤務時間が多様化し、子どもも習い事などが増えることで、家族

一人ひとりの生活時間が分散してきました。なにかをともにする機会が少なくなり、コミュニケーションが減少してきているのが現状です。毎日の食事ですさえ全員が揃うことが困難になってきています。かなり以前から子どもが一人で食事をする「個食」「孤食」が問題とされてきました。



家族との食事

長い間サルやゴリラを実地で研究してきた霊長類学者の山極壽一さんやまぎわじゅいち（現・京都大学総長）は、家族で食べることの重要性を以前から指摘されています。仲間と一緒に食事をするのはヒト・人間に見られる大きな特徴だとされています。人間以外の霊長類にとって食べ物仲間との間に喧嘩を起こすものとなり、サルたちはトラブルを避けるために互いに離れて個体単位で採食しようとするそうです。

なるべく顔を合
わさないように背
を向け合って餌を
食べているサルの
食事風景はおなじ
みだと思えます。



人間は自然の食
物をその場で食べず、自分に必要な量より多くの食
物を集めて仲間のもとへ持ち帰り、一緒に食べ、か
つ仲間と向かい合って食事をしてきました。子ども
は食卓を囲んで食事をする中で、みんなと同じもの
を食べ、みんなの気を損ねないように手を出し、取
る順番を考えたり食物の交換をしたりしながら共感
の能力を育ててきたのです。このように他者に共感
して生きる力は、主として家族によって生まれ、そ
の中でも「食事」に注目しているのです。

されど食事

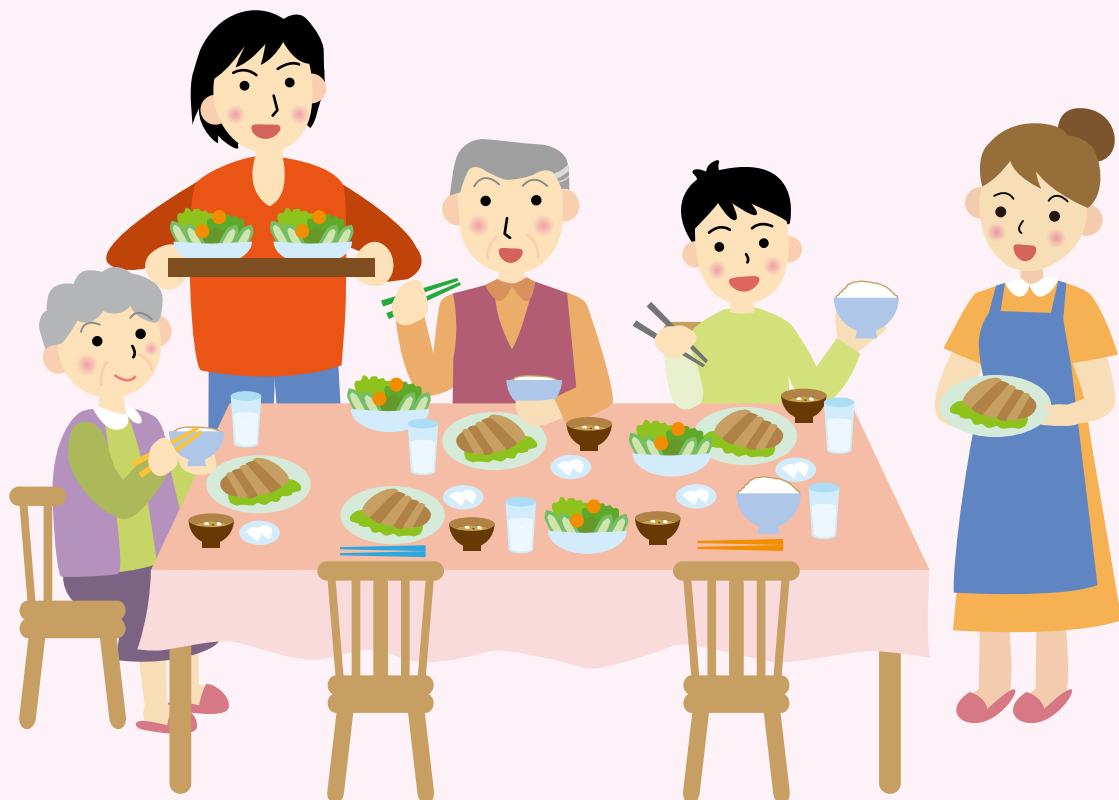
食事の重要性は生活習慣の形成や栄養補給の観点
から、「早寝・早起き・朝ごはん」や「食育」という

- 言い方でとりあげられてきました。こういった観点に加えて、食事は、子どもに人間独自の共感の能力やコミュニケーション能力もつけていることを見落としてはいけないでしょう。

また、テレビドラマでよくみかける刑事の「取り調べ」にある典型的な対面関係ではなく、食事でのコミュニケーションは、横の関係、並行関係で行われるためお互いの心を開きやすくします。子どもが親に本音を語るときは対面関係でなく、一緒に活動をしている横の関係の場合においてだと言われます。

子どもたちと「いただきます」をして一緒に食べることを日課にしていくと、席についていない子どもが気がになり、話題になります。そのことが家族を互いに理解していくことにつながっていくのです。

このように考えれば、家族と一緒に食卓を囲むことは、子どもが共感して生きること、人間らしく育っていくことの土台になっていきます。たかが食事ではなく、されど食事という視点で考えていきたいものです。毎日は無理でも、週に数回は子どもたちと一緒に食卓を囲むことが大事ではないでしょうか。



子どもに寄り添い、ともに学ぶ

(中2男子の母)

我が家には3人の息子がいます。私は子育てにおいて、積極性や意欲的に取り組む気持ちを伸ばすために、褒めることと、子どもとともに学ぶ姿勢を常に意識して接しています。例えば、普段から身の回りの不思議なことや疑問に思うことに目を向けるよう、親子の会話の中で意識させています。そして、夏休みの自由研究で、息子が知りたいことについて、一緒に調べたり、実験したりします。本当はすべて一人でやり遂げることがいいのかもしれませんが、親子で一緒に取り組むことが私にとっても「学び」を得るチャンスだと思っています。また、身近でがんばっている姿を見ることができ、その努力をしっかりと褒めてあげることができ、それが次の意欲に繋がっているように思います。

中2の息子とは、成長とともに、一緒に何かをする機会が少なくなってきました。また、今は大好きな野球に夢中で、学習は二の次、という感じですが、あまり心配していません。むしろ一生懸命に野球をしている姿を褒めて励まし、応援しています。一つのことには一生懸命になることができれば、勉強や他のこともがんばれると信じているからです。息子も信じてもらっていることで、勉強も部活動もがんばらなければならないと思うようです。

私はこれからも、息子たち一人ひとりに寄り添い、がんばりを褒め、親もともに学ぶ姿勢を忘れず、子どもとともに成長していきたいと思っています。

一緒に悩んで

(中2女子の父)

「なんで自学せんなんが…」

また始まった。宿題に嫌々取り組む娘のいつものセリフだ。中学生になってからは特によく聞く。そんなとき、私は決まって「文句ばかり言っても宿題は減らんから。やらなんんこと、早くやろ」と返すばかり。気が付けば、娘はだんだん自分のことを言わなくなり、部活動や登校まで渋るようになっていた。

そういえば、自分自身が中学生の頃、“納得いかないこと”を一緒に考えてくれる大人がいてほしかった。友だちのこと、先生のこと、部活動のこと…。自分の説明が足りないことはわかっていた。矛盾があるのもわかっていた。きっと娘も同じなんじゃないかな。

宿題や自学をする理由はいくつもある。でも、娘の心に響く納得解は、今はよくわからない。だから耳を傾けよう。一緒に悩んで、一緒に考えよう。

今日も娘は隣でぶつぶつ言いながら、自学でおきまりの漢字練習をしている。「精髓、変貌…。何と難しい漢字を習うようになったんやろか」と私が一言。「そうねんて。漢字もそうやけど意味がムズイ」「確かに」最近、娘が何か変わってきたような…。少しずつ、会話も表情も明るくなってきた。

先日、中学校で流行りのアイドルを教えてもらった。どうやら今年の忘年会はTWICEで決まりのようだ。娘よ、ダンスレッスン、どうかよろしくお願いします。

『家庭で子どもを育むための「8つのすすめ」実践セミナー』開催報告



基礎力財団理事長・
陰山ラボ代表
かげやま ひでお
陰山 英男 氏

7月21日(土)金沢歌劇座にて、『家庭で子どもを育むための「8つのすすめ」実践セミナー』を開催しました。まず、「8つのすすめ」の実践発表として、大浦小学校父親会(パパス&ママスクラブ)より「パパス&ママス 活動体験記」の発表、浅野町小学校父親会(愛と夢の会)より「加賀レンコン収穫と調理体験」の発表がありました。お父さんたちが地域の子どものために工夫した活動の発表は、パワーあふれる充実した内容でした。

その後、陰山英男氏のご講演がありました。「子どもの幸せのために親ができること」と題し、近い将来起こるであろうシンギュラリティ(人類に変わり、人工知能などが文明の進歩の主役に踊り出ること)に対し、家庭教育の中で配慮していきたいことを、講師の実体験も交えて講演していただきました。「徹底反復は脳力を高める、勉強とは脳を上手に使うトレーニングであり、集中する練習である」というお考えのもと、家庭での勉強を支える、学習習慣、学習環境、睡眠、食事、読書について調査統計を基に学力との関係を示されました。家庭教育の大切さを改めて確認するセミナーとなりました。

家庭教育に関する指針 「家庭で子どもを育むための8つのすすめ」

家庭は教育の出発点であり、子どもの心のよりどころです。子どもが安らぎを感じながら健やかに成長できるよう、かつて大人自身が家族のふれあいの中から教わった「大切なこと」を、子どもに伝えましょう。

1 持ち続けよう
子どもとともに **学ぶ姿勢**

子どもががんばったことは大いにほめて、お手伝いや学習、読書などに自ら取り組む意欲を伸ばすとともに、大人も「気づき」や「学び」を得る機会を持ちましょう。

2 きちんと守ろう
社会のルール 大人が手本

「子は親を映す鏡」、大人の行動を見ています。自らの行いを通じて、礼儀やマナー、言葉づかいを教え、良くないことはきちんと叱って善悪の判断ができるようにしましょう。

3 声かけよう
笑顔であいさつ 朝一番

自分からあいさつすることで会話が生まれ、家族の絆が強くなるとともに、地域の輪も広がります。笑顔のあいさつに心がけましょう。

4 創ろう
あたたかい家族のふれあい

子どもに笑顔で接し、心によりそい共感すると、子どもは安心感を持ち、前向きに考えることができます。家族のふれあいや会話を大切にしましょう。

5 大切にしよう
思いやりの心 すべての命

子どもが受けた思いやりは、子ども自身の思いやりの心、ゆずりあいの心につながります。自分や他者の生命の尊さを伝えましょう。

6 伝えよう
心のこもった「ありがとう」

「ありがとう」と言われたうれしさは、人やものに感謝する心を育みます。日頃から、子どもに感謝の言葉を伝えましょう。

7 育もう 子どもの健康
「早寝 早起き 朝ごはん」

規則正しい生活リズムと食習慣は、一日のやる気と元気の源です。基本的な生活習慣と外遊びや運動で、たくましい心と体を育みましょう。

8 支えよう
子どもの夢と可能性

家族は子どもの一番の応援団です。いろいろな体験を通してチャレンジ精神やあきらめない心を育み、夢に挑戦する姿勢を温かく見守りましょう。

家庭教育の相談窓口の紹介

金沢市教育プラザ 研修相談センター 子ども総合相談センター	①おはなし電話	子どもの発達や学校生活、子育てなどに関する相談に応じます。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-0874
	②子ども専用 相談ダイヤル	子ども専用の通話料無料の相談電話です。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.0120-92-8349
	③いじめ電話相談	いじめに関する悩みごとについて、電話でお応えします。 (平日9:00～21:00 土・日・祝日9:00～17:00)	Tel.076-243-1019
金沢市児童相談所	④虐待通報	子どもの虐待に関する通報を24時間体制でお受けします。	Tel.076-243-8348
	⑤児童相談所	18歳までが対象です。相談内容は養護、保健、心身障害、非行、育成、虐待等です。(平日9:00～17:45)	Tel.076-243-4158
金沢市児童家庭相談室	経済的に困っている家庭の子どもに関する相談や、ひとり親家庭の相談に応じます。 (平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2422
金沢市家庭教育サポーター	身近な地域の家庭教育サポーターが相談に応じます。 (連絡先 金沢市教育委員会生涯学習課 平日9:00～17:45)		Tel.076-220-2441

いつでもどこでも家庭教育の情報が手に入るホームページ「かなざわ家庭教育サイト」を開設しました。

詳しくは、「金沢 家庭教育」で検索!

金沢 家庭教育

検索

URL
https://www4.city.kanazawa.lg.jp/39026/katei_1.html



〒920-8577 金沢市広坂 1-1-1

金沢市教育委員会生涯学習課

Tel.076-220-2441 Fax.076-220-2488

E-mail syougaku@city.kanazawa.lg.jp